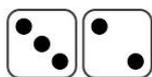


「サイコロ」は個数理解の最高の教具

サイコロの目は見てすぐに個数分かるように工夫されたとても良い教具です。

見やすいように大きめのサイコロを用意しましょう。



3は2より1個多いことが一目で分かります。

2の目が出たときに、右図のように指で隠すと1個の違いが鮮明に分かります。これは小学校に進学した時の「違いはいくつ？」という「引き算」の問いを理解するために育てておいてほしい概念につながります。



また、4は2と2の集合でできているのがよく分かるデザインで、これも、いま数の理解に役立つだけでなく、小学校での算数の基礎にもなります。



4と5のデザインでも、5は4より1多いことを自然に理解することができます。これも、4が出たときに真ん中を指で押さえて「4？ or 5？」と尋ねるとクイズになります。



6は3と3の集合という見方もできますし、2と2と2の集合、つまり2×3の場面という見方もできます。ただ、幼児期は、そこまで教えるのは止めましょう。あくまでも、小学校2年生での「掛け算」理解を容易にするということ。

①「数だし」遊び

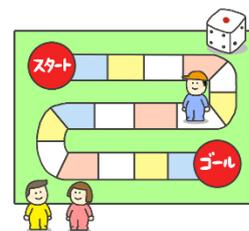
自分が出したい数を宣言してサイコロを振る遊びです。

自分がふったサイコロの行方を注視し、早く結果が知りたいと、パッと見て個数把握をする。

これが個数理解にとっても役に立ちます。思った通りの目を出たときの喜びがやる気のスイッチを入れてくれます。

②「すごろく」遊び

すごろくはサイコロの目「個数」と、駒をいくつ動かすかという「回数」を対応させるのに役立つ遊びです。出た目を見ながら、「1, 2, 3。」と駒を動かすだけでなく、サイコロをハンカチで覆ってしまい、出た目(数)を覚えて駒を動かすという遊びにも発展できます。



イラストの里

③「すごろく」ジャンプ

市販のジョイントマットを使い、すごろくのマス代わりにします。

そして、出た目の数だけ自分が進むという遊びです。両足ジャンプ(グージャンプ)の練習にもなります。滑ると危ないので裏地に「滑り止め」加工が施されているものを選びましょう。



1,2,3,4

